

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第54回広報・見える化部会 会議録	
日時	令和5年7月26日(水) 15時00分～16時30分
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと5
出席者	奥井委員、国吉委員、高田部会長、高橋委員、村松委員、望月委員 (五十音順)
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴0人)
議題	1 Yokohama みどりアップAction 9号記事内容について 2 その他
議事	<p>(事務局) ただ今から、市民推進会議第54回の広報・見える化部会を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議について報告します。本会議は、要綱の第5条第2項により半数以上の出席ということが成立条件になりますが、本日、委員定数6名のところ、6名出席していただいておりますので会議が成立することを報告させていただきます。</p> <p>また、本会議ですが、同要綱第8条により、公開となっており、会議室内に傍聴席、記者席を設けております。また、本日のこの会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は委員の皆さまに事前にご確認をいただきたいと思っております。なお、会議録には個々の発言者の氏名を記載することとしておりますのでご了承いただきたいと思っております。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌へも掲載させていただくことも併せてご了承願います。</p> <p>次に、お手元の配布資料についてご説明させていただきます。「次第」と書かれたA4の紙、資料1「Yokohama みどりアップ Action 9号記事内容について」と書かれたA4の資料、資料2レイアウト案と書かれたA4横向きのものがあります。過不足等あれば申し付けください。</p> <p>「参考資料」として、今日使用するスライドをとじた緑色のフラットファイルを置いています。随時ご覧ください。</p> <p>事務局からは以上になります。それでは、今後の進行につきまして、高田部会長、よろしく願いいたします。</p> <p>(高田部会長) 暑い中、コロナもまた増えてきたとはいえ、皆さんで顔を合わせながらの会議を開くことができました。</p> <p>個人的なことになりますが、ドッグランをやり、併設でドッグカフェとランチレストランを始めるにあたり、やはり食のことについて大事に考えていきたいと思い、この会議で知った「はまふうどコンシェルジュ」に応募しました。6月22日から5回にわたる講習会に参加しています。</p> <p>この5年にわたり、皆さんと部会で色々なところに取材に行ったことがとても役に立っていて、もう一度復習している</p>

ような感覚です。その知識があったから、今回の講座を聞いても深く入ってくるし、活用ができるかなと思います。

横浜市が食と農をつなぐ地産地消を推し進めるためにこの研修をしています。講座に参加している人の中には、これから農を始めようと思っている人もいます。今回で17期ということで、実際に就業しようとする人もかなりいます。飲食の人もいれば、ただ色々なことを知りたくてという人もいます。皆さん最初の動機は色々ありますが、食と農に関心を持って参加しています。こういう会によって結び付けて理解を深めていくことはとてもいい機会で勉強になっています。

ここでは入り口として、色々な知識を皆さんに紹介します。「ここでコミュニケーションを取って、そこからどんどん発信してください」という話でした。資料の中に活動している人とか、話の中にも出てきました。今まで知らなかった奥井さんの話が「ああ、ミカンの話はこういうことだったのか」と分かりました。市庁舎2階にある飲食店は、はまふうどの関係で1期生が始めたところで、シェフの人も話しに来てくれたり、中から色々な人が育って今を築いています。

この会の『アクション』という意味で知り得て、私なりに動ける内容が色々分かり、有意義でした。

さて、今日は、みどりアップ Action 9号の記事内容についての話になります。事務局からご説明をよろしく願いいたします。

(事務局説明)

(高田部会長)

ありがとうございます。

橋本さんは(公財)横浜市緑の協会の理事長ですね。

私もガーデンネックレスについてほとんど分からなかったので、本日事務局に説明してもらいました。ガーデンネックレスについては、緑の協会が関係しているのですか。

(事務局)

そうですね。実行委員会が作られ、その実行委員長が緑の協会の理事長です。

(村松委員)

横浜市の理事だった橋本さんとは別ですか。

(事務局)

同一です。

前々回の部会が令和4年度で、そのときはみどりアップ推進担当の理事でしたが、3月に退職し、今年の6月から新しく、緑の協会の理事長になりました。

(高田部会長)

本当に、このみどりアップ計画を基礎から作り込んでいった人です。歴史的なことをいろいろ聞けるとと思います。

そうすると、やはり緑の協会の活動もしっかりと分かってないといけないのかなと思います。里山ガーデンのこともそうです。

ガーデンネックレスは臨海部と里山ガーデンと2拠点で展開しています。「ネックレス」というのはつながって、途中も増やす目的があるのかなと思いました。

(事務局) 「ガーデンネックレス」という名前で事業を行っているのは臨海部と郊外部の里山ガーデンで、事業として環境創造局が行っています。同時期に、例えば港北区だとオープンガーデンをしています。特に春は各区で花の取組が徐々に広がってきています。我々がガーデンネックレスを始めたときも、色々なものがつながっていった全体を輝かせるという思想で名づけました。そういう取組の方向性に合致してきていると思います。

(高田部会長) 拠点として二つが挙がっていますが、最終的な目標としてはほかの行政区も民間もそろってネックレスが出来上がってくるということですね。

(事務局) そうです。

(高田部会長) そういうことを踏まえて、記事内容についてどうでしょうか。

(奥井委員) 前々回のことを私が忘れていたのかもしれませんが、巻き三つ折りになったことのボリューム感というのは何か意図があって、今回はスペシャルになったのでしょうか。

(事務局) 広報部会では年間2回発行してきました。みどりアップ計画では柱が3つあり、3つの柱を順番に記事にしていくと、今年度が最終年度になったとき、ちょうど緑化で終わります。そこで、今年は1号、緑化について発行ということですが、発行を1回にする代わりに、最終号として少し内容のページを増やします。前々回の部会で、「ボリュームがあるけれど、やりましょう」という話にまとまりました。

(高田部会長) 私たちが広報に携わるのはこれが最終号です。まとめになるかなということでした。

(事務局) その中で、橋本理事長に取材に行こうという話が出ていたので、今回案として出しました。取材地として里山ガーデンに行くことについてもご意見を聞ければと思います。

(村松委員) この案にはテーマが二つあります。一つは里山ガーデンで、緑化や食育、花育等、ガーデンネックレスといった一環です。これを読んで「行ってみたい」と思ってもらえればという内容です。そして、もう一つのテーマがこれまでの『Action』の5年間、みどりアップ計画とのつながりや全体の振り返りですが、二つが混ざってしまっている感じがします。

読む人は、まず里山ガーデンがパッと目に入り、読んでいくと、実は『Action』が最終号で、アクションという題名のねらいは皆さんに知ってもらい、行ってもらい、できれば活動までしてもらったことだったとわかり、その後、今までの振り返りが出てくるほうが読みやすいかなと思います。

「ガーデンネックレスはこういうもの」とか「里山ガーデンはこういうところ」といった説明的なものをちょこちょここと入れ

て、みどりアップの三本柱や、みどり税を取っていることも囲みで説明するような形で、事実を知らせる部分と私たちの振り返りを入れたらと思います。振り返りの前に里山ガーデンの話を入れて、すっきりさせたほうが読みやすいと感じました。

(高田部会長) これ1枚でみどりアップ計画の概要や三本の柱が絵やキーワードで分かるようにできればと思います。

私たちは普通に話していますが、初めて読む人やほかの市から来た人が見て、横浜のみどりの仕組みが分かるようなものがあるのかなと思いました。

(国吉委員) 今の村松さんの話にも賛成です。二つが入り混じるのではなく、区別したほうがいいと思います。今、ざっくり印象だけなので、どちらが先か後かを考え、また皆さんの意見を聞けたらと思います。最初にみどり税についてと、私たちが今までに行ってきたことをしっかり説明し、その一つとして里山ガーデンがあります。そこで楽しむだけではなく、食育や花育に関わってもらえます、という内容から、最後はGREEN×EXPO 2027のことです。そのときには非常に多くのボランティアも必要になると思うので、関心を持ってもらうことと、「自分たちでも参加してもらえそうなアクションを是非起こしてください」というような流れができるかなと思います。

(高田部会長) ストーリー展開が大事ですね。

(国吉委員) せっかく『Action』なので、「アクションにつなげてください」と持っていけるといいかなと思います。

(村松委員) 読むときの順番は、まず中面を見て、それからこちらから折って読むでしょうか。

(事務局) 表紙があって、それを開いたら中表紙がここです。開くと中面が全てそろそろ形になります。作り方次第で、中表紙を先に見てもらえるか、中面のこの辺が先に目に入ってしまうか、工夫次第かなと思います。

(高橋委員) A3版ではなくA4版ですか。

(事務局) はい。

(高橋委員) A3で三つ折りみたいな形ですか。

(事務局) A4を三つ中心に折る形です。

(高田部会長) 暫定的にはこのA4の大きさですか。

(事務局) はい。
今までのActionにもう1枚、A4のページが付きます。

	(高田部会長) かなり大きいですね。
	(事務局) レイアウト案はA3で印刷しているので大分小さく見えますが、実際は大きいです。 最初の一步として、理事長への取材は了承ということでいいでしょうか。
	(高田部会長) どうですか。時間があえば、橋本理事長にお願いしたいと思います。里山ガーデンでの取材はどうですか。
	(奥井委員) タイミング的にはいいのではないのでしょうか。
	(高田部会長) 記念らしくていいと思います。橋本さんのような初期から関わっている人から次世代の人につないでいけるといいと思います。 あとは、構成案に対して、何をどういじるかということですよ。
	(高橋委員) テーマ案は、「こういうことについて取材してはどうか」というひとつの提案ですよ。
	(事務局) はい。
	(高橋委員) 里山ガーデンの花育とか食育には、どんなことがあるのですか。
	(事務局) 里山ガーデンには地産地消のキッチンカーが出ています。横浜農場といったところとコラボしながらやっています。ああいうもので食育について知ってもらったり、進めていくきっかけづくりができればいいのではないかと思います。 この点は事前に橋本理事長にも相談し、理事長自身の考えで花育や食育の話を入れたいという思いもありました。取材すれば、理事長の思いを話してくれるかと思います。
	(高橋委員) 里山ガーデン付近の敷地には樹林地や竹林もあります。その管理はどの部署がしていますか。
	(事務局) 公園緑地整備課です。会場の区域は、実行委員会で花を植えたりしています。
	(国吉委員) ここは森ではなく公園という位置付けですか。
	(事務局) 全体的には公園予定地の扱いです。ズーラシアにこの区域も加えて横浜動物の森公園です。今オープンしているのはズーラシアのところだけです。里山ガーデンも含めて将来的に公園にしていこうという動きはあります。
	(高橋委員) 今でも樹林地の中にはフォレストアドベンチャーなどがあり、家族連れで遊べますね。
	(事務局) 30年ぐらい前に横浜動物の森公園を計画したときは、動

	<p>物園と植物園を一緒の敷地につくったらどうかということ でスタートして、まずは動物園をつくりました。この状況で 残りの部分を本当に植物園のようにしていくのか、この時代 に合わせて計画を見直すのか、今後検討していくことになっ ています。</p> <p>公園予定地を活用してフォレストアドベンチャーや里山 ガーデンを開催しています。</p>
(村松委員)	この様子もまだ変わる可能性があるのですか。
(事務局)	そうです。将来的には変わる可能性はあります。
(高田部会長)	造成してこの土地をつくったのではなく、もともとの形状 だったのですね。
(事務局)	里山ガーデンのところはもともとああいう形状で、360度 見渡しても鉄塔1本ない景観が広がっているようなところ でした。ちょうど正面入り口広場の辺りが、都市緑化フェア のとき入り口として整備をしています。それ以外のところ は、もともとあった地形を生かしています。
(高田部会長)	一見して、木を切り倒してつくったように見えますが、質 問したら「違う」と言われました。皆さんも作った地形だど 思っているのではないのでしょうか。
(事務局)	もともと畑でした。ちょうど大花壇のところですね。
(国吉委員)	私も30年前に子供を連れて行ったことがあります。近所 の人たちも散歩していました。どちらかという、公園とい うよりも森のイメージがあります。
	緑化フェアをするとき、サクラの木を切ったりして、 色々な声が聞こえました。
(奥井委員)	里山ガーデンは期間限定ですか。 それが終わったら公園になる予定なのですか。
(事務局)	公園としての整備をいつからやるかは未定です。 公園としての工事を始めると、完成するまでずっと工事費 がかかり、それなりのお金が動きます。財政など色々な状況 を見ながら、公園としてどういうふうにしていったらいいか 考えている最中です。
	未定なので、ああいう使い方をして市民に楽しんでいただ いています。
(高田部会長)	花壇は常にきれいにしているのですか。
(事務局)	基本的に、春と秋をねらって植え替えをします。 秋の里山ガーデンが終わったらすぐ、春のための準備を始め ます。球根をまいたり、見せたい植物を植えて大きくします。 現地では常に何かしらやっていますが、市民に楽しんで

らう期間としては春1か月、秋1か月ぐらいです。

(高田部会長) その間は閉鎖しているのですか。

(事務局) ピンクで塗っている部分については閉鎖しています。それ以外のところは散策等で使えます。

(高田部会長) 球根を植え替え中のところは散策できるのですか。

(事務局) 閉鎖しています。

(高田部会長) ガーデンフェスタには2回ぐらいルート1で参加しています。スターボックスが企業ということで声がかかりました。私たちがそれを「やりましょう」ということで、メンバーで、ドングリの対策に特化してやりました。

ガーデンネックレスの間は花壇がとてもきれいになっているし、テントがあり、色々な活動をしている人のブースがあります。野菜を販売しているところもあればキッチンカーのエリアもあります。メンバーの中でも印象に残っているイベントです。

公園予定地ということですが、もうあれである程度完成している気がします。今回そういう話を記事にできるかもしれませんね。

(事務局) 橋本理事長が公園緑地部長の時代から携わっています。都市緑化フェアの前からです。歴史は全部分かっていると思います。

(高田部会長) そういう話をひも解きながら、先ほど村松さんが言ったキーワード的な質問がされたらいいのではと思います。対談でお話がたくさん出てきそうです。

(国吉委員) 表紙にはいつも人物が入っているのですが、今回はどうするのですか。ほかに関わっているメンバーがいますか。

(事務局) 里山ガーデンをバックに、委員の皆さんと橋本理事長が対談している風景がよいかなと想定していました。

(高橋委員) 本当は、現地で活動している人たちの集合写真のほうがいいと思います。公園のほうでも掲示板があり、みどりアップ計画の柱3に関係するところは掲示されています。

(村松委員) 実際には誰が花を植えたり手入れをしているのでしょうか。

(事務局) 基本的には業者がやっています。また、緑の協会の取組の中で、色々な緑化団体のリーダーが来て、名前や手入れの手法などを学んでいます。

ただ、草取りや花づくりはプロがやっています。

(国吉委員)	デザイナーはいますか。
(事務局)	大橋さんという人がいます。
(国吉委員)	市民やボランティアが集まって手入れしているところがありますか。
(事務局)	スポットでやっていることは確かです。
(高橋委員)	ガーデンの中で、人がたくさん歩いたりしています。展望台から写真を撮ると、花の後ろに森があり、多くの人が花を見ています。本当はそれでもいいのかもしれませんが。
(奥井委員)	仮にそういう集合写真を考えているなら、中にちらっと載せるのがいいかなと思います。
(事務局)	前にみどりアップQをやったときに、やはり最後に橋本理事長と話をしています。そのときの表紙は皆さんが対談している様子を撮りました。
(望月委員)	事務局が考えているのは、今回は『みどりアップ Action』が最終的な皆さんのまとめだから、ということもあるようです。皆さんがやってきたものを写真として表紙に残したいという話です。
(高橋委員)	普通の人が見たときに「メンバーだけでやっているのか」というようにとらえてしまうのではないかと思います。後ろのほうに、「こういう人たちがつくっています」と小さく出したらと思います。一般の人から見て、表紙に載せるのは少し興ざめする感じです。
(事務局)	本当に、皆さんがみどりを進め、集約する形で活動しています。今までの『Action』はアクションしている人が中心でしたが、最後の号で、正に皆さんも広報部会も含めて活動されてきましたので、主役かなと思います。イメージとしては、是非、里山ガーデンをバックにして撮ってもらってもいいかなと思います。
(高田部会長)	構成案についてはどうですか。
(事務局)	構成案は案1、2と示しましたが、やはり決まっていくのは最後のようになります。次のステップで、取材した後で判断してもいいかと思います。
(高田部会長)	スケジュール的には取材はどうなるでしょうか。
(事務局)	9月から10月です。
(高田部会長)	話を聞いてみてということですか。

	<p>(事務局) 例えば、大梓が橋本理事長に取材という形と、取材地が里山ガーデンということがまず決まれば、構成案を決めるにはまだもう少し時間があります。案1、案2は皆様に書いていただくページが1ページ増えるかどうかです。 橋本理事長は相当、話題豊富で、幾つも引出しを持っています。そういう中で少し構成は変えていくかもしれません。</p> <p>(高田部会長) 会ってみてからということですね。</p> <p>(奥井委員) 取材した内容で、皆さんから挙がってきた記事のボリューム感でということですか。</p> <p>(事務局) それもあるかと思います。やはり皆さんの広報誌なので、ページが足りないようであれば増やしていくのはあると思います。</p> <p>(奥井委員) 単純に見ると、案2のほうが委員の作成ページが多いということですね。</p> <p>(事務局) そうということです。</p> <p>(高橋委員) あとは取材するときのテーマで、具体的にどんなことを聞か、どんなことを入れればいいのかですね。</p> <p>(高田部会長) 今それを決めたほうがいいですか。</p> <p>(事務局) 先ほど村松委員から「テーマが二つになってしまうのではないか」とありました。里山ガーデンのところと、これまでのみどりアップの振り返りもあります。国吉委員からも、その部分の前後をどうするかという話がありました。 橋本理事長はガーデンネックレス横浜実行委員会の委員長という肩書もあることを踏まえ、導入はガーデンネックレスの取組ということで、里山ガーデンに触れるのはどうでしょうか。理事長との対談で、里山ガーデンから徐々にみどりアップ計画の話になっていくのではないかと思います。そこに柱1から3のことや、皆さんが意見交換したいことを入れ込んでいくと、自然とこういうパッケージになりつつ園芸博につなげていけるのではと思います。</p> <p>(高橋委員) みどりアップ計画の話の中でも少し、柱3についてクローズアップしたほうがいいです。1から3まで全部やることはできません。</p> <p>(事務局) 基本的には、恐らく柱1から3をベースにしつつ、柱3のどういうことを成し遂げてきたかに落ち着いていき、里山ガーデンを通じた取組につながっていくのかなと思います。やはり柱3がメインになってくるのかなと思います。</p> <p>(高田部会長) なので、ここでどういう内容を聞きたいのか決めたいですね。</p>
--	---

	<p>(高橋委員) 内容は事前に決めておいたほうがいいですね。 都市緑化フェアから始まって、ガーデンネックレス自体は山下公園や港の見える丘でやりながら、里山ガーデンでもやってきた、という流れですね。</p> <p>(事務局) 正に今おっしゃったような流れが最初のページかなと思います。</p> <p>(高橋委員) みどりアップ計画でこれまで成し遂げてきたことの中で、「ガーデンネックレス横浜」という取組がありました。都市緑化フェア以降こういう取組がされています。多くの人たちがみどりに関わるようになったという話なのではないでしょうか。</p> <p>(奥井委員) ただ、一般の人が最初に見ることを考えると、左にすぐに「里山ガーデンはこんなところ」という簡単な説明があったほうが導入としては入りやすいかなと思います。一般の人たちには「みどりアップ計画」という言葉がピンとこないと思います。 今やっているフェアの写真と内容をプロローグのような形で導入にし、開いた後、これに携わっている理事長のインタビューが見開きで出てくるようにして、質疑応答でやっていくという流れでうまくいくかなと思います。</p> <p>(高田部会長) 最初に里山ガーデンという成果があり、そこから「実はこれはこういう流れでできました」というのをひも解く感じでしょうか。</p> <p>(奥井委員) そうですね。それでまた最後に「今後に向けて」でしめる感じですか。</p> <p>(村松委員) 里山ガーデンのことを聞きに行くというより、たまたまみどりアップ計画のことを聞きに行くのが里山ガーデンだった、という感じになってしまいます。</p> <p>(高橋委員) それで事務局側も工夫して「里山ガーデンで考えるみどりアップ計画のこれまでと今後」というような形にするわけですね。</p> <p>(国吉委員) 緑の協会の位置付けというのも、皆さんは「花をくれるところ」というイメージを持っています。実際のところよく知りません。 せっきやくの機会なので、横浜市緑の協会はどのようなところかも話してもらえると有り難いです。</p> <p>(高田部会長) 横浜市で緑の協会以外で類似の団体などはありますか。</p> <p>(事務局) ないです。横浜市緑の協会のみです。</p> <p>(高田部会長) そうということがよく分かっていない人は多いかもしれない</p>
--	--

	<p>ですね。</p>
(高橋委員)	<p>『アクション』で最初に行った鴨居原市民の森でも、緑の協会から寄贈された木がありました。そこで緑の協会についてそういうことをやっているんだ、と知りました。少し詳しく書いてあってもいいような気がします。</p>
(高田部会長)	<p>実際、私たちも色々と活動していて、そこに関わっている市民で緑の協会の関係の人もいます。「苗などは緑の協会からもらえる」と言われるのですが、漠然としか分かりません。</p>
(事務局)	<p>緑の協会が独自に、緑の推進団体への支援をしています。緑の推進団体になっている自治会等に支援しています。全体としてどういうことをしているか、市民から見ると、皆さんが言うとおりの感想なのかなと思います。</p>
(高橋委員)	<p>各自治会町内会で緑に関係することをやろうとする人たちが、緑の協会に相談して、どうやって緑を増やそうとか、何を植えればよいかとかを相談してアクションにつながる。緑の協会を紹介することで、実際に活動する人がそういうことをできるかもしれないですね。</p> <p>活動するきっかけをつくったほうがいいかもしれません。</p>
(高田部会長)	<p>活動するには資格がいるのか、地域緑のまちづくりのように提案してちゃんとやらなければならないのかも全然分かりません。もう少し説明してもらえるといいかなと思います。</p>
(奥井委員)	<p>はまっ子ユーキとかもやっていますか。</p>
(事務局)	<p>はまっ子ユーキはグリーン事業協同組合がつくっています。里山ガーデンのすぐ隣にプラントがあります。市内の公共工事から出てくる街路樹や公園の枝を切ったりしたときに、それをリサイクルしてたい肥にします。できたものをはまっ子ユーキとして流通させています。</p>
(奥井委員)	<p>近くでやっているのですか。</p>
(事務局)	<p>里山ガーデンからは近くです。</p>
(奥井委員)	<p>確かに、これからアクションする人たちが緑の協会に関わることは多いと思います。どんなサポートをしてくれるか紹介してもらいたいかなと思います。</p>
(高橋委員)	<p>そういうことを入れるといいかもしれません。詳しくは2次元コードで。Action ではこれまでもそんな形でやりました。</p>
(高田部会長)	<p>整理すると、里山ガーデンのことを先に出そうという話がありました。最初に花育、食育まで言ってしまうとわけが分</p>

	<p>からなくなるので、それは対談の中で出してもらうということですね。</p> <p>最初に、絵的にも里山ガーデンを持ってきて、ガーデンネットワークスにつなげ、「これまで成し遂げてきたこと」につなげ、将来やっていきたいことにいけばいいですかね。</p>
(高橋委員)	案1のながれでいいのではないのでしょうか。
(奥井委員)	いいと思います。 ちなみに、これは投影資料だけですか。このまま欲しいかなと思います。メモに持って行きたいです。
(高橋委員)	それをベースに具体的な質問ができます。
(事務局)	取材のときにお配りします。
(村松委員)	順番に見出しになっているわけですか。
(事務局)	そうです。レイアウト案にそのまま仮に入れています。
(高田部会長)	最初の原案はなかなかイメージがつかないので、ありがとうございます。
(村松委員)	最終号なので、アクションとしてのねらいをどこかにと思います。
(高田部会長)	どうすればアクションにつながっていくかの具体的などころですね。 では、今の皆さんの意見を反映して、具体的な案を作成していただけるといいと思います。
(村松委員)	みどりアップ計画でこれまで成し遂げてきたことは大げさというか、大きすぎる気がします。
(高橋委員)	「理事長がやってきたこと」でいいかもしれません。
(事務局)	色々と広く聞いてもらえればいいのかと思います。場は里山ガーデンですが、質問は里山ガーデンに限らなくていいかと思います。自由に発言してもらえればと思います。橋本理事長もいろいろな引出しを持っているので、いい議論ができると思います。
(高田部会長)	この文章を書くのはどうしましょうか。
(高橋委員)	総出でやりますか。
(奥井委員)	総出でもいいのではないですか。
(高田部会長)	では、皆さんで、ということでいいですか。5つぐらいのテーマができるのではないかと思うので、それを分担してと

	<p>いうことで。</p> <p>(高橋委員) 私は GREEN×EXPO のところを書いてみたいです。</p> <p>(高田部会長) 私も情報として知っておきたいのですが、GREEN×EXPO が、現状どんなふうに進んでいるのか、ざっくりと教えてください。</p> <p>(事務局) 現在のところ、公式ロゴマークが決まりました。横浜市役所のロゴマークも決め、徐々に進んでいます。 園芸博覧会のときに具体的にどんなところが出展し、どんな会場計画になるのかはまだこれからです。まずは園芸博があることを広く皆さんに知ってもらう取組を今している段階です。これからパビリオンがどうなるのか、その中でどんな楽しみ方ができるのかといったことを検討していく段階になります。中身についてはこれからです。</p> <p>(奥井委員) 先日、新聞に「四つのセクターに分かれる」と書いてありました。</p> <p>(事務局) 今、正にテーマやコンセプトを練って、どういうふうに世に出していくかというような動きをしているところです。</p> <p>(高田部会長) 「主会場が決まって」という情報を見ました。</p> <p>(事務局) 会場は、横浜北部にある旧上瀬谷通信施設です。横浜町田インターの近くにあります。大体、80～100ヘクタールあります。 委員の皆様には、その辺の概要が分かる資料を別途、メールで送ります。</p> <p>(高田部会長) 知り合いがここまでの計画で委員に入っていました。「そこから離れて時間ができたので、出席できます」と言っていて、だんだん順に進んでいるのかなというイメージがありました。</p> <p>(事務局) 園芸博協会のほうで検討は色々幅広くしているのは事実です。検討したことをどういふふうに出していくかというところだと思います。</p> <p>(高田部会長) 実行のトップは誰ですか。</p> <p>(事務局) 園芸博覧会協会というところです。</p> <p>(村松委員) ボランティアの講習会が始まって、それを受けに行った人がいました。</p> <p>(事務局) 園芸博協会としてボランティア育成をしていこうというのは掲げていますが、具体的なカリキュラムは始まっていません。ただ、公園愛護会の皆様に、球根のばらまき花壇等を試</p>
--	--

	<p>していただいている、園芸博覧会でも何かやっていただくということも考えています。そういった取組に参加した方もありません。</p>
(奥井委員)	<p>環境創造局か農業振興課で、「出展のアイデア出し募集」というようなメールをもらった気がします。区などで行う食育・花育や学校の総合教育や取組の発表といったものです。</p>
(国吉委員)	<p>8月何日までというものではないですか。FMヨコハマか何かで出ていた気がします。</p>
(事務局)	<p>確認しておきます。</p>
(高橋委員)	<p>私がGREEN×EXPOで書きたいのは、下水道の中にリンやチッ素が流れていて、それを肥料にしようという取組があるということです。昨年度の国土交通省のプロジェクトに横浜市が採択されました。農業用の肥料は野菜作りのほかに、みどり植物や花きで活用したらどうだろうかという話があります。</p> <p>EXPOに向けて、まず横浜市で下水から作られた肥料を活用しようというのを目標にしてリンの回収をし、肥料にすると、循環型社会になります。輸入に頼っていたものの代わりに、横浜のものを使ったらと思います。せっかく有機物が色々と流れてくるので、汚泥の中に入っているものを下水処理場で回収して肥料化して使っていこうということです。2,700ぐらいの公園愛護会があるので、まずは植物のほうがです。野菜のほうでやろうとしたら嫌がるかもしれないので、まずは植物で活用できるのではないかと思います。実際にそのプロジェクトが始まっているようなので、そういうことを書きます。</p>
(奥井委員)	<p>地域循環型経済ですか。</p>
(高橋委員)	<p>そうです。</p>
(国吉委員)	<p>議員に話を聞きました。</p>
(奥井委員)	<p>当初のイメージより、SDGsなどで環境配慮した取組をかなり打ち出している感じがします。</p>
(高橋委員)	<p>そうですね。基本的にはSDGsです。</p>
(事務局)	<p>名前だけ見ると「国際園芸博覧会」なので、「園芸」が前面に出てしまいましたが、中身は循環型社会の形成やSDGsの達成といった課題解決の糸口となるようなことを見せていこうというのが主目的です。</p> <p>園芸だけではなく、ライフスタイルや社会も色々発信できるような博覧会になっていくのではないかとはいっています。</p>

(奥井委員)	「お祭りが終わったら終わり」ではなく、跡地の活用方法も検討しているのですか。
(事務局)	基本的には、会場の跡は公園としていく計画です。園芸博の通路も、将来公園として残す前提で計画のすり合わせをしています。無駄にならないようにやりたいと思っています。
(高橋委員)	都市緑化フェアをベースにガーデンネックレスをやっています。そのような形で持続性を持たせています。きっと博覧会もうまくやれると思います。
(国吉委員)	浜松市や淡路と同じような公園になっていくということですか。
(事務局)	博覧会をした記録が残りつつ、新しいものが発信できるようなものを目指していこうと思います。
(国吉委員)	過去にタイと北京に行きました。北京はどちらかというと花が前面で、タイは農がすごく前面に出ていました。国全体でそれを押し進めているような内容でした。私も、花ではない印象があります。 淡路のときには環境のことを随分出していました。
(高橋委員)	今、環境はグリーンですね。
(国吉委員)	グリーンです。たくさん話してもらえないでしょうか。
(高田部会長)	GREEN×EXPO という名前ですね。最初は「花博」と言っていたような気がしますが、しっかりと打ち出したのですね。
(事務局)	そうですね。いわゆる花だけではないのだということを打ち出したいので、「GREEN」を使っています。
(高田部会長)	望月先生、最後のまとめのところについて冊子の中に書かせてもらえればと思いますが。
(望月委員)	いいえ、これはあくまでも皆さんの手作りの部分で。
(高田部会長)	その辺の話でもしてもらえると。
(望月委員)	もちろん、具体的な話の中では話をさせてもらいます。
(高田部会長)	私たちには言えないところの。
(望月委員)	それは言います。
(高田部会長)	もうずっと見守ってきてもらっていたので、私たちもずっと、言いたいことが言えてきたのだと思います。ポイントのところでコメントをお願いします。

(望月委員) 橋本理事長はよく、過去から現在、将来を考えて話をしていました。聞きたいことは何でも聞いたほうがいいです。「あれはどうしてできたのですか」「どういう仕組みですか」と聞くと、全部答えてくれます。

(高田部会長) このぐらいで大丈夫ですか。

(高橋委員) 花育・食育に関係しますが、意外と横浜というのは、農業の生産が多いです。花で言えばシクラメンやマリゴールドとか、かなりの生産があります。横浜市の生産は全国第何位ぐらいか、最新の情報が知りたいです。それをクイズ形式にしたり、若しくは、それだけでもいいです。「横浜は農業についても随分先進的にやっているのだな」とか、「キャベツやイモの生産量が市としては多いのだな」というのを、豆知識ではないですが、端のほうに載せたらと思います。「横浜はこれだけ花き農家や普通の農家が頑張っている」と分かるような、ベスト5のようなものがあればと思います。

(高田部会長) 私もこの前、はまふうどでやはりクイズ形式でやっていた新鮮でした。コマツナが日本一の出荷量だそうです。ホルスタインが日本で最初に来たのは北海道ではなく横浜です。ペリーが来航して街ができて牛乳が必要になり、牛を飼うようになりました。

神奈川県かと思ったら、「えーっ、横浜市でコマツナ」と思いました。

(高橋委員) そういふのを熱心な人に知ってもらおうと、意外といいかもしません。

横浜の農業統計が平成18年の資料です。新しいものは意外とないのかなと思います。

(事務局) コストがかかるということで、国が作物別統計を18年を最後にやめてしまいました。品目別のものが追えなくなってしまいました。

(高田部会長) 今、流通が多様になってきています。必ず市場を通すとも限らず、生産者から消費者に直接という場合もあります。スーパーなども形としては市場を通すらしいですが、直接やり取りして取りに行ってしまう。量とかが分かりません。

(事務局) その国の統計も、個々の農家に「どれぐらい出しました」というのを出してもらってちゃんと積み上げてやっていましたが、そういうことができなくなってしまいました。ただ、戸数や面積など引き続き追っているものはデータとしてあります。それが神奈川で1位だとか、そういうものは作れると思います。

面積、農家数、売上高、農業生産力が三浦や横須賀を押さえて1位です。

	<p>(高橋委員) 平成 30 年の資料では、三浦や平塚を押さえて横浜市がだんとつというのがありました。意外と市民は具体的な名前があった方が「ほう」と思うかもしれません。</p> <p>(奥井委員) 生産量ですか。</p> <p>(高橋委員) 生産量です。興味を持つための豆知識も少し入れたいです。</p> <p>(高田部会長) 生産量で出すと、皆さん「えっ、そんなにたくさん」という意見があるかもしれません。本当に、わずかししか作っていないというイメージです。</p> <p>(事務局) ほかの市町村も並べて出してみるとはじめて「あっ」と思うのかもしれません。量だけだと多いのか少ないのか分かりません。</p> <p>(高橋委員) 全国何位とか県内何位というのがあると分かりやすいです。</p> <p>(高田部会長) その辺の資料も分かる範囲でお願いします。</p> <p>(事務局) 記事が 6 ページでは足りないかもしれません。その部分も含めて用意します。</p> <p>(奥井委員) この取材のスケジュール調整はどうしますか。</p> <p>(事務局) 改めてさせていただきます。</p> <p>(事務局) 今日、里山ガーデンということで決まりました。今後、秋の開催予定が決まった段階で日程調整します。9 月から 10 月ということで幅広ですが、分かった時点で全員が出席できる日を調整します。その後、調査部会も秋口に実施していきたいと思います。</p> <p>(事務局) では、部会を終了します。貴重な意見をありがとうございました。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 資料 1 みどりアップ Action 9 号記事内容 資料 2 レイアウト案</p>